

居合道 だより

第 198 号

恭賀
新年



新春のお慶びも
申し上げます

はじめに



千代剣友会 古館 博

輝かしい新年を迎えお慶びを申し上げます。

昨年も新型コロナは猛威をふるい、またロシアによるウクライナ侵攻が始まり、暗く心の重い日が続きました。

しかし年の締めくくりの W 杯は日本中を元気にし多くの感動を与えてくれました。浅野のシュート、三苦の 1 mm、^{にわか}俄サッカーファンになってしまいました。いま

だに感動を引きずっています。これはまずい！少年たちはサッカーに目が行ってしまおう！！

居合で同じように感動を得る機会は、やはり大会しかないのでは？

以前は身近で多くの大会に参加でき、普段の稽古の何倍もの収穫がありました。

真夏の暑い日、弁当の脇の冷たいうどんが嬉しかった八女大会。

大会の記念品の馬油をカミさんが待ち侘びていた佐賀大会。

初段から七段までの団体戦で抜きつ抜かれつ大変盛り上がった大分大会。

さて、私達の、W 杯より大切な北九州大会が、コロナ禍の影響、人手不足などで大変な危機にあります。

感動の舞台の一つを失うわけにはいきません。皆さんの協力をお願いします。



ごあいさつ

福岡県剣道連盟居合道部

会長 井手 友太

新年明けましておめでとうございます。

コロナ渦が始まってから四年目を迎えた。社会はウィズ・コロナでの生活が一般的になってきた。年末年始を迎えて急速に感染者は増えてきたがむしろコロナに対する慣れの方が怖いような気がする。油断大敵である。感染対策を新たな習慣として日常を過ごしていく気構えを忘れてはいけない。

『風邪は万病のもと』昔からの言い伝えは真理をついている。スペイン風邪もインフルエンザも新型コロナウイルスもきっと風邪なのだから。

拙道場では毎年正月の稽古始めには必ず『一年の計は元旦に有り』と昔からの言い伝えを話してきた。今年も当然そうする。

居合道の根本の目的は修行する者皆同じだが目標は人それぞれに違う。そしてそれは1年1年変わってくる。ただ漠然と稽古するのと目標を持って稽古するのでは全くといって良いほど成果が違ってくる。

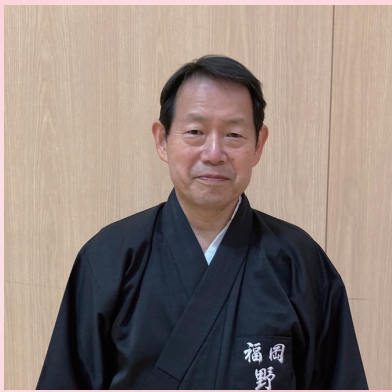
年の始めは、自分自身で立てた目標をいかに達成するかとの自分との戦いの始まりである。その戦いこそが己自身を高めてくれる唯一の手段でもある。

筆者もここ数年、この年になってしかもコロナ渦もあいまって『もういいかな～充分やったし』と不遜にも思っていたが、新年を迎えた途端『もう一度老骨に鞭打ってみようかな～(あくまでやさしく)』と思い始めたりしている。

目標とは夢を叶えるための道程だし、その夢は決して己自身のためだけのものではなくまわりのみんなを対象にしてのものもあるのだなとも。

会員の皆様が今年1年間、健やかに楽しく道に励み、目標を達成されますようにお祈りいたします。

今年もよろしく願います。



七段昇段にあたり

武道館 七段 野田 尚徳

この度、東京での全日本剣道連盟居合道段位審査会におきまして、居合道七段に昇段させていただきました。

昨年八月、コロナウイルスに感染し、気力・体力を失い、一からの稽古再開はとても辛く、情けない気持ちで一杯でした。更に後遺症にも悩まされましたが、諸先生、剣友の皆様方の厳しくも温かいご指導、ご支援、励ましの言葉に感謝致しますとともに厚く御礼申し上げます。

あの日、11月27日は、審査開始前の並んで座っているときから、なぜか心は落ち着き、何かに集中している感覚がありました。また、手のひらに汗が出ていない事にも気づきました。とにかく、目の前の相手に集中!! 集中!! と心にずっと言い聞かせて出場しました。

業前は、1本目「前」4本目「柄当て」8本目「顔面当て」9本目「添え手突き」10本目「四方切り」11本目「総切り」の6本でした。

1本目に柔らかく手がけが出来たかなあと感じ、あとは各業の切り終わりを意識しながら6本を淀みなく演武しました。業の途中途中は霧がかかったようであまり覚えていませんでした。終わりの刀礼のころ、我に帰ったような気持がして胸がドキドキしました。

審査終了後、気持ちの集中が切れなかったという安心感がありましたので、発表時は平静に向かえることができました。

ただ実際に合格者の番号があることを確認したら、急に腰が砕けそうになりました。

今後は、高段者の名に恥じないように、益々、精進に努めますので、引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



六段を拝受して

明德館道場 六段 磯野 美佐緒

この度、東京都での審査会におきまして居合道六段を拝受致しました。

また、三か月前には和歌山県での杖道六段審査会におきましても拝受致し、今年は二重の喜びと感謝の年となりました。この感謝を私の恩師でありました今は亡き波止成徳先生、また波止先生をご紹介下さいました故桑田正悟先生へ、直接お伝えすることが出来なかったことが誠に残念でなりません。私の師匠は手取り足取りという事は一切無く「はい、見てやんなさい、自分で工夫しなさい、頭の中で技を思い描きなさい」のみ。先生の振り方、間の取り方を拝見、真似から入りました。三段の頃には高知、新潟や大阪大会などで入賞させて頂けるようになっていました。また、その頃は副師範でありました小川内先生におきましては五年後の審査会に向けて全日本剣道連盟居合を基本から学ばせて頂き、先生が代表であります八女地区居合同好会への出稽古もお許し頂き三年間今までの悪癖を直していきました。半ばには全日本の稽古会にも呼んで頂き吉田初喜先生のお車で通わせて頂いたことも貴重な体験でした。今回は初の二道、全国審査に挑戦の年で不安の中、杖道でもそうでしたが、今までの思い込みを閉まって素直に一人の一流の先生に習う事が早道であると体感致しました。

お教え頂いた「剣の道 闇夜の如し 我が差す一刀(燈) 道を照らす」

不出来な弟子はぼんやりお聞きしてメモしておりましたが、こうゆうことだったんだな！とやっと理解いたしました。

ご縁を頂きました故、波止先生その後の明德館道場を引き継いで下さった松本容子館長、明德館道場居合道部を支え導いて下さいました顧問の小川内先生、門弟の皆様、出稽古を快く受け入れて下さいました八女地区居合道同好会の先生方々、講習会などで御指導頂きました諸先生方々には厚く厚く御礼申し上げます。これからも一層精進していきます。御指導の程どうぞ宜しくお願い致します。

1 月・2 月の予定

1 月 8 日 福岡県居合道部初稽古会
22 日 地域稽古会

福剣連 福岡武道館
居合道部 宗像

編集後記

明けましておめでとうございます。

恭賀新年、謹賀新年とカッコつけたいところですが、お子様もご覧になっているということで、失礼致します。

さて本年は「^{みずのとうさぎ}癸兔」、干支は組み合わせで60年に一度回ってくるそうです。癸は陰陽でいうところでは陰にあたり、雨や霧で大地が濡れて全ての終わりという年ですが、ところが実は新しいものが芽吹く、という意味があり、決して陰気なわけではございません。しかも卯年。つまり反動強く高く跳ねて、一発逆転、V字回復と急成長を意味するそうです。

コロナで3年間いろいろな事で苦しみましたが、今年こそ皆で、羽付きの羽の如く、三笥の1mmの如く、素晴らしい五本目の切り返しの如く鮮やかに鋭角に返し勝ちましょう！

3月には待望の北九州居合道大会が開催されます。人手不足の中、北九州の若き勇士たちが奔走し、知恵を絞り、山超え谷超え大河を超える想いで開催に臨んでおります。

微力でも無力じゃない！筆者も、何かのお手伝いさせていただき所存です。あの空気感を実現するには皆様のお力添えなくしては成し得ない事です。

後世に残すためには今まで苦しかった3年間の「重い扉」をこじ開け、一歩前に進む事がきっと未来につながることを信じております。

何卒ご協力のほどお願いいたします。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第19号 令和5年1月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW